



秋山 弘子 (AKIYAMA Hiroko)

東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授

津田塾大学英文学科卒業、東京大学教育学部教育心理学科卒業、同大学院教育学研究科(教育心理学)修士号取得、同大学院教育学研究科(教育心理学)博士課程中途退学。米国イリノイ大学大学院(発達心理学)博士課程修了、イリノイ大学博士号 (Ph.D.)。

ミシガン大学公衆衛生学部研究員、米国国立老化研究所研究員、ミシガン大学社会科学総合研究所研究教授、東京大学大学院人文社会系研究科教授 (社会心理学)、東京大学ジェロントロジー寄附研究部門教授 (2006~2009 年)、日本学術会議副会長などを経て、2009 年 4 月から現職。

1987 年から 25 年余、高齢者の well-being の主要因である健康、経済、人間関係の間のダイナミックな変容を約 6000 名の高齢者を 3 年毎に追跡調査し、加齢に伴う高齢者の生活の変化に関する科学的データの蓄積と体系的理解を目指している。超高齢社会の新たな Successful Aging の理念を追求。近年は超高齢社会のニーズに対応するまちづくりや産官学民協働のリビングラボにも取り組む。超高齢社会におけるよりよい生のあり方を追求している。

主な最近の著書として、『高齢社会のアクションリサーチ：新たなコミュニティ創りをめざして』(東京大学出版会、2015 年)、「Japan's Longevity Challenge」(『Science』December 2015・VOL 350 ISSUE 6265)、『東大がつくった高齢社会の教科書』(ベネッセ出版、2013 年)、『発達科学入門』(東京大学出版会、2012 年)、『2030 年 超高齢未来 —「ジェロントロジー」が、日本を世界の中心にする』(東京大学高齢社会総合研究機構編、東洋経済新報社、2010)、 「長寿時代の科学と社会の構想」(『科学』岩波書店 2010 年 1 月号)、「新老年学 第 3 版」(東京大学出版会、2010 年)「自立の神話「サクセスフル・エイジング」を解剖する」(上野千鶴子他編『ケアという思想』: 岩波書店 181-194, 2008 年) などがある。他に論文多数。